

バド五輪代表固まる

女子単 **大堀** 男子複 **ホキコバ** 混合複 **ワタガシ**



大堀彩



保木卓朗



小林優吾



渡辺勇大



東野有紗

日本勢全種目メダル獲得狙う

バドミントンのアジア選手権(寧波＝中国)が14日に閉幕し、約1年に及ぶパリ五輪出場権争いが終了した。4月30日付の五輪予選ラウンドでの最終確定を前に、日本勢は目標の全5種目でのメダル獲得に向け、代表の骨格が固まった。

シングルスは男女で最大の各2枠を確保する見込みだ。男子は奈良岡功大(NTT東日本)が昨年5月のレース開始時から安定的にポイントを重ねた。昨年の世間選手権では準優勝するなど新エースに成長した。29歳の西本拳太(ジェイテクト)は悲願の五輪初出場となる。桃田賢斗(NTT東日本、富岡高卒)は故障が多く、争いに絡めなかった。

女子はエースの山口茜(再春館製薬所)が昨秋の杭州アジア大会で負傷し、長期離脱に見舞われながらも順位は揺らがなかった。大堀彩(トナミ運輸、富岡高卒)は奥原希望(太陽ホールディングス)と終盤まで争った末、2人目の座を確実にした。ダブルスは男子の保木卓朗、小林優吾組(トナミ運輸、富岡高卒)女子の志田

千陽、松山奈未組(再春館製薬所)混合の渡辺勇大、東野有紗組(BI PROGY、富岡高卒)が徐々に代表を確保とした。女子の2枠目は、ともに2021年東京五輪代表の永原和可那、松本麻佑組(北都銀行)が福島由紀、広田彩花組(岐阜BlueVics)との激戦を制した。福島、広田組は昨年12月の広田の左膝前十字靭帯断裂のだけが響いた。

西本初の切符

バドミントンの男子シングルの西本が14日までにパリ五輪代表入りを確実にした。同種目の日本勢では奈良岡に続いて2人目。29歳の西本は五輪初出場となる。西本は三重県出身で、埼玉栄高から中大に進学。一昨年にはジャパン・オープンを制した。

奈良岡決勝進めず

バドミントンのアジア選手権は13日、中国で各種目の準決勝が行われ、男子シングルの奈良岡は中国選手に1-2で敗れた。

▲4月16日付 福島民友新聞掲載